

ALPS処理水海洋放出の状況について

2025年7月3日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1. 海洋放出に係るモニタリングについて
2. J9エリアタンクの解体状況について
3. 今後の放出に向けたALPS処理水の移送について

(参考1) 役員人事（2025年6月26日付）を踏まえた社内体制の変更

(参考2) 放出開始以降の海域モニタリングの実績

1. 海洋放出に係るモニタリングについて

2. J9エリアタンクの解体状況について

3. 今後の放出に向けたALPS処理水の移送について

（参考1）役員人事（2025年6月26日付）を踏まえた社内体制の変更

（参考2）放出開始以降の海域モニタリングの実績

1 - 1. 海域モニタリングの実績

- 放水口付近（発電所から3km以内）の10地点、放水口付近の外側（発電所正面の10km四方内）の4地点で採取した海水について、迅速に拡散状況を把握するための迅速モニタリングにおいてトリチウム濃度を測定した結果は、いずれも指標（放出停止判断レベル、調査レベル）を下回っている。

（単位：Bq/L）

	試料採取点*3	頻度	5月	2025年6月						
			26日	2日	4日	5日	9日	16日	23日	30日
放水口 付近	5,6号機放水口北側 (T-1)	2回/週*1	—	<5.2	—	—	—	—	—	—
	南放水口付近 (T-2)	2回/週*1	—	<5.2	—	—	—	—	—	—
	北防波堤北側 (T-0-1)	1回/日*2	<8.5	<5.9	—	—	<6.9	<6.6	<7.5	<7.4
	港湾口北東側 (T-0-1A)	1回/日*2	<8.5	<5.8	—	—	<6.9	<6.6	<7.4	<7.4
	港湾口東側 (T-0-2)	1回/日*2	<8.5	<5.9	—	—	<6.8	<6.6	<7.4	<7.5
	港湾口南東側 (T-0-3A)	2回/週*1	—	<7.2	—	—	—	—	—	—
	南防波堤南側 (T-0-3)	2回/週*1	—	<5.8	—	—	—	—	—	—
	敷地北側沖合1.5km (T-A1)	2回/週*1	—	<7.2	—	—	—	—	—	—
	敷地沖合1.5km (T-A2)	1回/日*2	<6.8	<7.2	—	—	<7.2	<8.5	<6.9	<9.6
	敷地南側沖合1.5km (T-A3)	2回/週*1	—	<7.2	—	—	—	—	—	—
放水口 付近の 外側	敷地沖合3km (T-D5)	1回/週	<6.7	<5.2	—	—	<7.2	<8.5	<6.9	<9.7
	請戸川沖合3km付近 (T-S3)	1回/月	—	—	<6.6	—	—	—	—	—
	敷地沖合3km付近 (T-S4)	1回/月	—	—	<6.6	—	—	—	—	—
	熊川沖合4km付近 (T-S8)	1回/月	—	—	—	<6.9	—	—	—	—

※：<○ は検出限界値○Bq/L未満を示す。□ は検出された値を示す。

*1：放出期間中および放出終了日から1週間は2回/週実施、放出停止期間中（放出終了日から1週間は除く）は1回/月実施

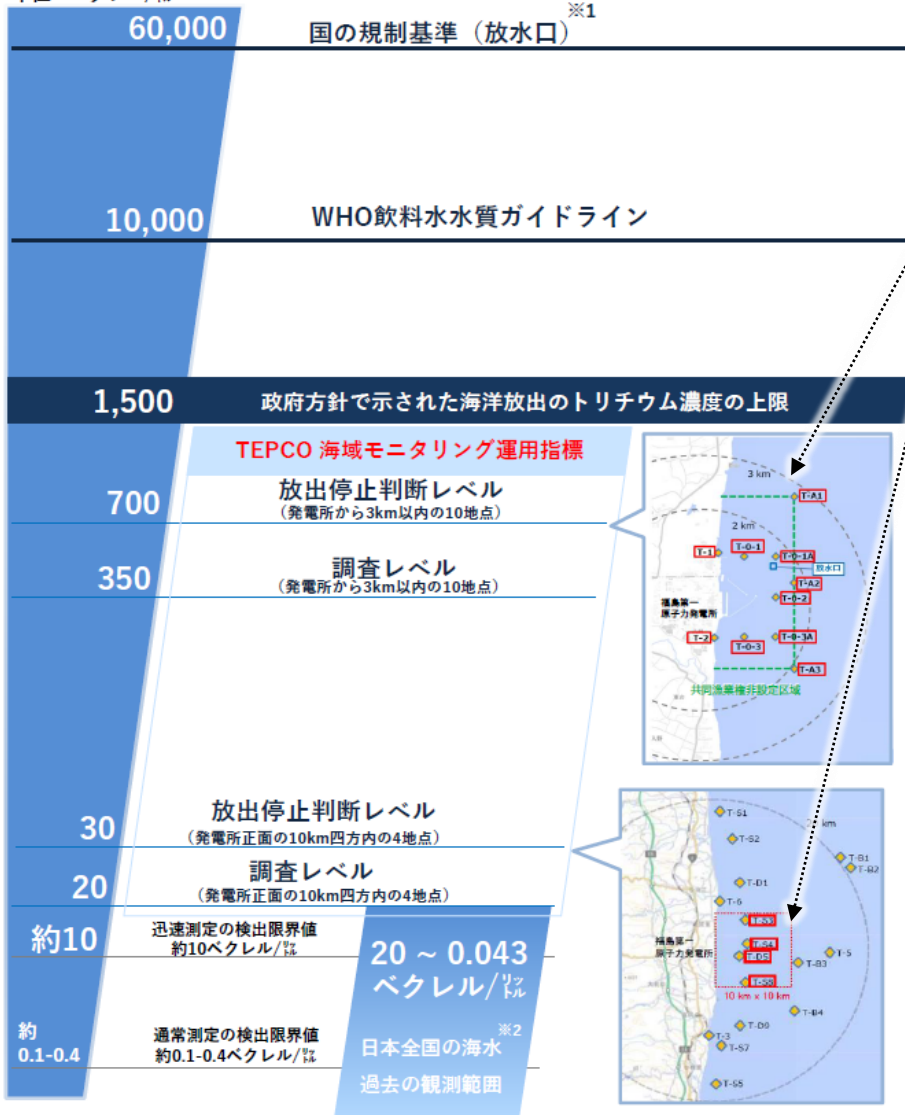
*2：放出期間中および放出終了日から1週間は1回/日実施、放出停止期間中（放出終了日から1週間は除く）は1回/週実施

*3：試料採取点の位置は「参考2）海域モニタリングの計画」を参照

【参考】海水のトリチウム濃度の比較

【参考】海水のトリチウム濃度の比較

単位：ベクレル/ℓ



- 当社の運用上の指標として、放出停止判断レベルおよび調査レベルを設定している。

	放出停止判断レベル	調査レベル
発電所から3km以内	700 Bq/L	350 Bq/L
発電所正面の10km四方内	30 Bq/L	20 Bq/L

＜放出停止判断レベルを超過した場合＞
海洋放出を速やかに停止

＜調査レベルを超過した場合＞

設備・運転状況の確認、採取頻度の強化を検討

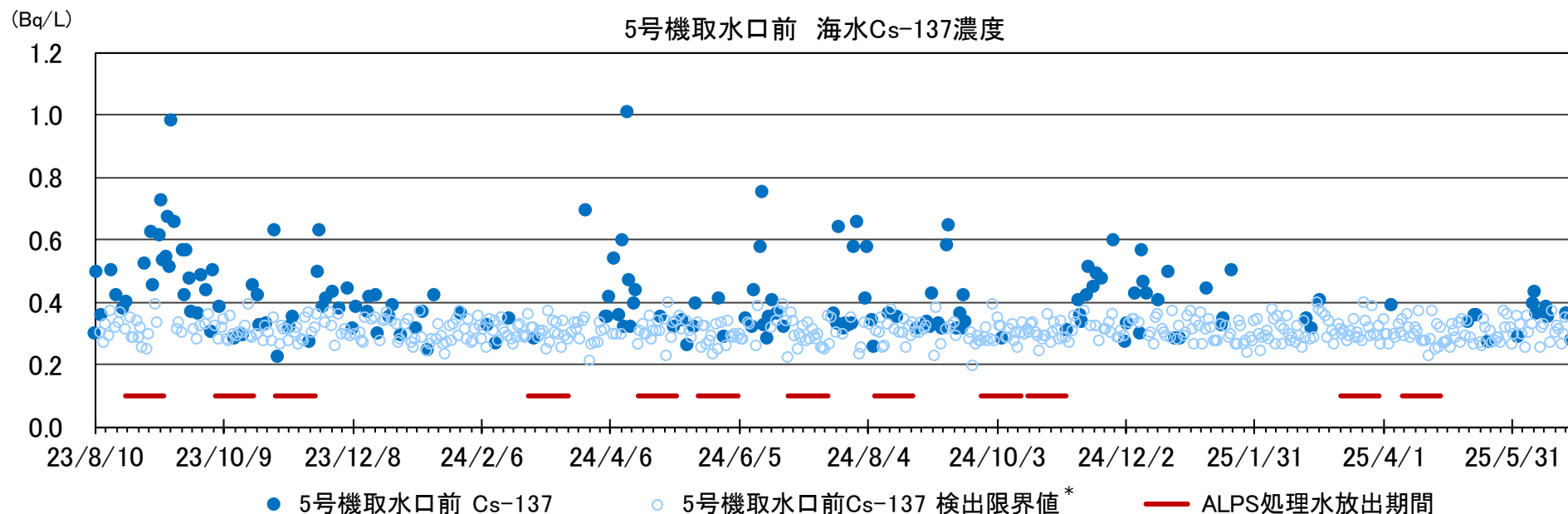
- 指標（放出停止判断レベルおよび調査レベル）を超えた場合でも、法令基準60,000 Bq/LやWHO飲料水水質ガイドライン10,000 Bq/Lを十分下回り、周辺海域は安全な状態であると考えている。

- 今後、放出する処理水のトリチウム濃度に応じて海水濃度も影響を受け、これまでより高い分析値が検出されることも想定される。それらの場合でも、調査レベルなどの指標を下回るものと考えている。

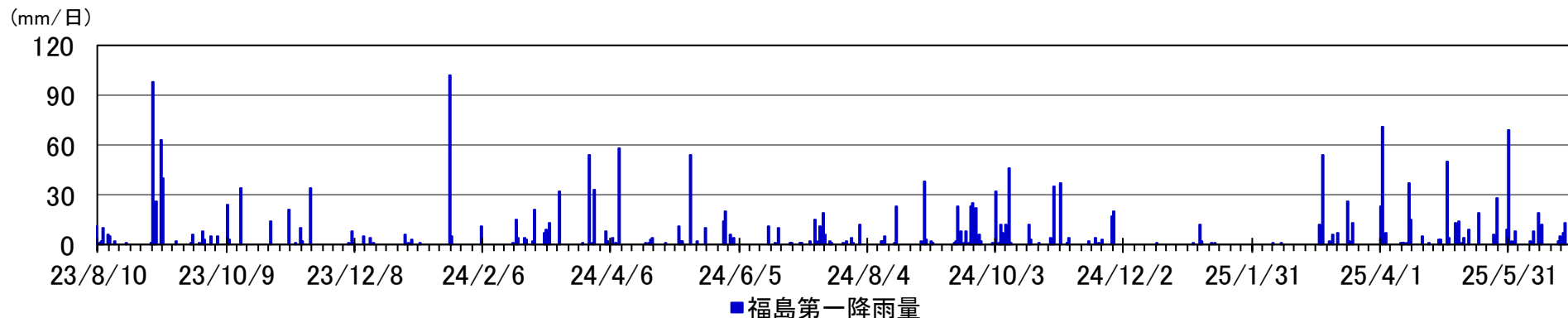
※1：原子力施設の放水口から出る水を、毎日、その濃度で約2ℓは飲み続けた場合、一年間で1ミリシーベルトの被ばくとなる濃度から定められた基準
※2：出典「日本の環境放射能と放射線」（期間：2019/4～2022/3）

1 - 2. 5号機取水路のモニタリングについて

- ALPS処理水の放出期間中の希釈用海水の取水口付近での海水モニタリング結果は、放出停止期間中の値と同程度であることを確認している。

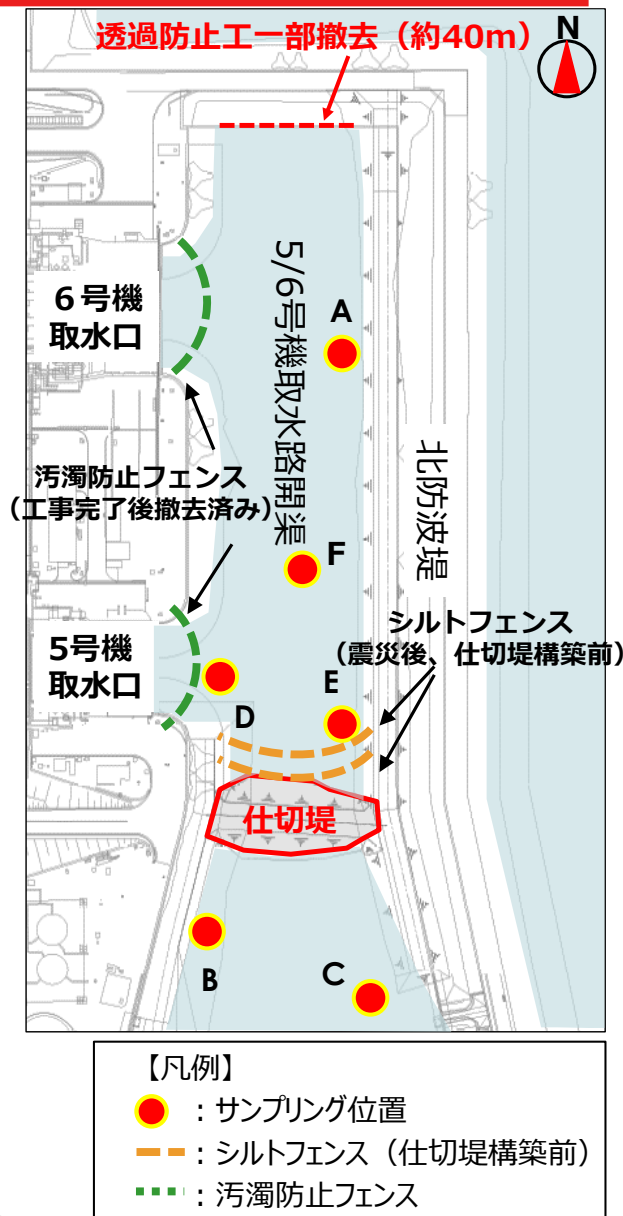
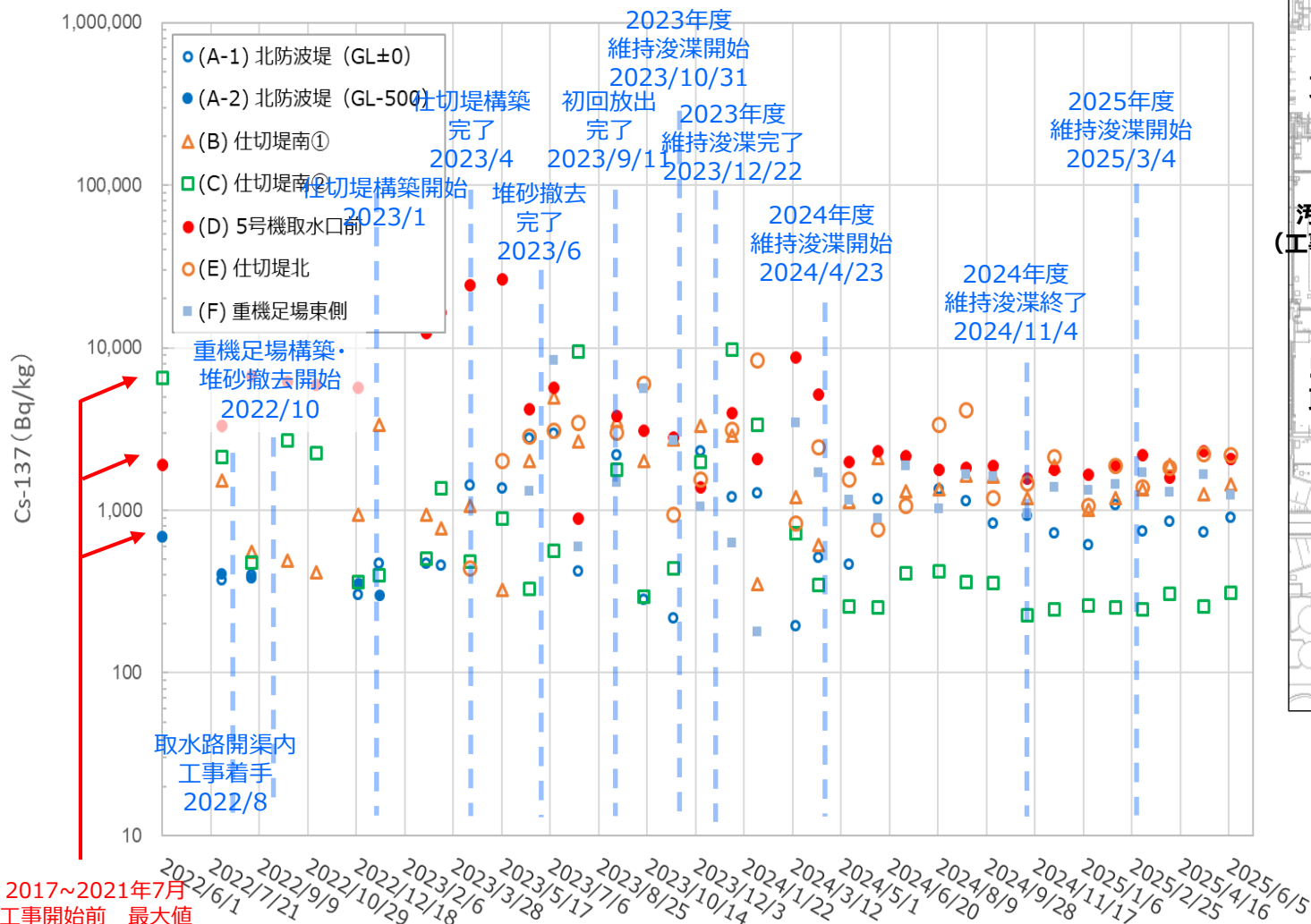


*：検出限界値未満の場合に検出限界値を表示



1 - 3. 5/6号機取水路開渠内の海底土モニタリング結果（1）

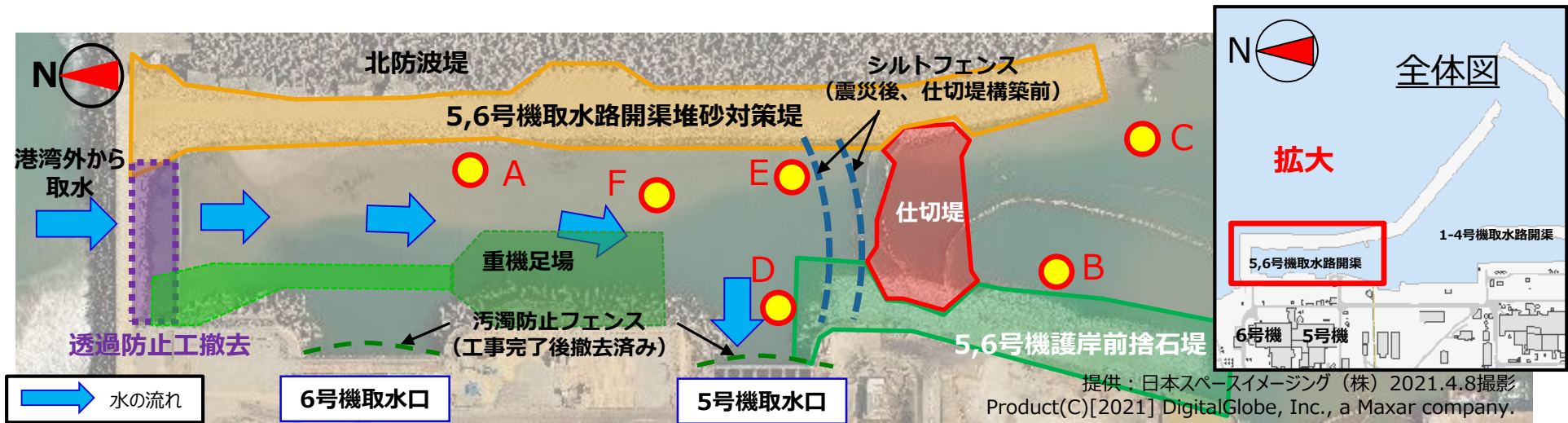
- 5号機取水口前モニタリングにおいて、取水路開渠内の工事開始後、2022年12月までは有意な変動は見られなかったが、2023年1月以降は高い値を示しており、堆砂撤去の完了に伴い、数値の低下を確認している。
- 引き続き、海底土モニタリングを継続実施していく。



1－3． 5/6号機取水路開渠内の海底土モニタリング結果（2）

TEPCO

➤ 2022年8月～2025年6月までの5/6号機取水路開渠内の海底土モニタリング結果を以下に示す。



採取地点		工事開始前	2022年度	2023年	2024年												2025年					
		2017～2021年7月	8月～3月	4月～12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
A-1 5.6号開渠北側 (シルトフェンス北側 GL±0m)	Cs-134	4.4～52.3	31.5～39.8	32.0～69.5	44.5	51.1	34.6	34.4	34.8	53.6	51.4	40.4	59.0	64.5	38.1	57.6	37.4	45.4	38.7	45.0	51.3	47.3
	Cs-137	163.6～678.6	303.2～468.1	216.7～2975.0	1,210.0	1,270.0	195.2	510.4	461.7	1,169.0	2,107.0	1,337.0	1,135.0	826.2	922.9	725.1	615.9	1,079.0	741.1	850.5	727.6	902.6
A-2 5.6号開渠北側 (シルトフェンス北側 GL-0.5m)	Cs-134	14.4～58.5	32.5～38.3	—	※浚渫により砂を撤去したため、表面（GL±0m）のみ実施																	
	Cs-137	310.0～689.8	299.1～404.0	—																		
B 仕切堤南側① (シルトフェンス南側)	Cs-134	723.0	34.5～65.6	48.8～97.1	75.2	38.2	52.8	35.1	50.6	48.1	39.7	58.2	55.7	64.5	42.5	57.6	39.4	38.9	48.3	55.0	35.7	40.0
	Cs-137	6,475.0	412.8～3,331.0	323.8～4943.0	2,868.0	353.9	1,205.0	613.8	1,125.0	2,086.0	1,308.0	1,342.0	1,638.0	1,622.0	1,190.0	1,863.0	1,006.0	1,185.0	1,340.0	1,889.0	1,251.0	1,447.0
C 仕切堤南側② (シルトフェンス南側)	Cs-134	183.0	30.9～68.7	37.1～234.8	153.3	115.8	42.4	26.5	36.9	39.2	29.5	41.4	38.1	48.6	31.0	29.8	33.8	28.9	39.2	36.7	33.7	50.7
	Cs-137	1,893.0	360.8～2,671.0	295.9～9519.0	9,737.0	3,345.0	723.9	348.9	257.0	253.0	409.7	419.6	361.7	356.2	227.4	246.4	258.6	252.8	245.6	306.9	257.5	311.6
D 5号機取水口	Cs-134	—	101.6～3,546.0	50.2～690.7	61.8	50.3	177.8	114.8	79.6	50.3	40.3	64.9	69.3	83.5	52.0	50.7	35.9	35.9	39.7	44.4	47.1	53.1
	Cs-137	—	3,301.0～144,000.0	951.7～26400.0	3,981.0	2,069.0	8,661.0	5,140.0	1,970.0	2,305.0	2,166.0	1,763.0	1,834.0	1,866.0	1,563.0	1,773.0	1,656.0	1,898.0	2,175.0	1,587.0	2,306.0	2,064.0
E 仕切堤北側	Cs-134	—	—	35.6～147.0	64.4	161.2	46.4	40.4	38.3	37.0	41.6	55.0	50.1	55.7	33.1	42.7	38.4	59.7	30.0	44.4	47.4	82.8
	Cs-137	—	—	437.1～5795.0	3,145.0	8,371.0	829.4	2,427.0	1,551.0	764.6	1,066.0	3,371.0	4,154.0	1,191.0	1,460.0	2,118.0	1,060.0	1,878.0	1,388.0	1,834.0	2,202.0	2,196.0
F 重機足場東側	Cs-134	—	—	40.2～166.1	58.6	31.3	55.3	37.8	87.1	34.1	40.7	49.1	74.8	58.6	48.2	63.2	40.0	42.8	42.2	50.0	56.4	40.7
	Cs-137	—	—	592.4～8303.0	630.9	178.7	3,446.0	1,694.0	1,148.0	891.0	1,884.0	1,020.0	1,654.0	1,606.0	955.9	1,392.0	1,332.0	1,447.0	1,710.0	1,295.0	1,664.0	1,235.0

※単位：Bq/kg、灰色ハッチングは検出限界値未満

1. 海洋放出に係るモニタリングについて

2. J9エリアタンクの解体状況について

3. 今後の放出に向けたALPS処理水の移送について

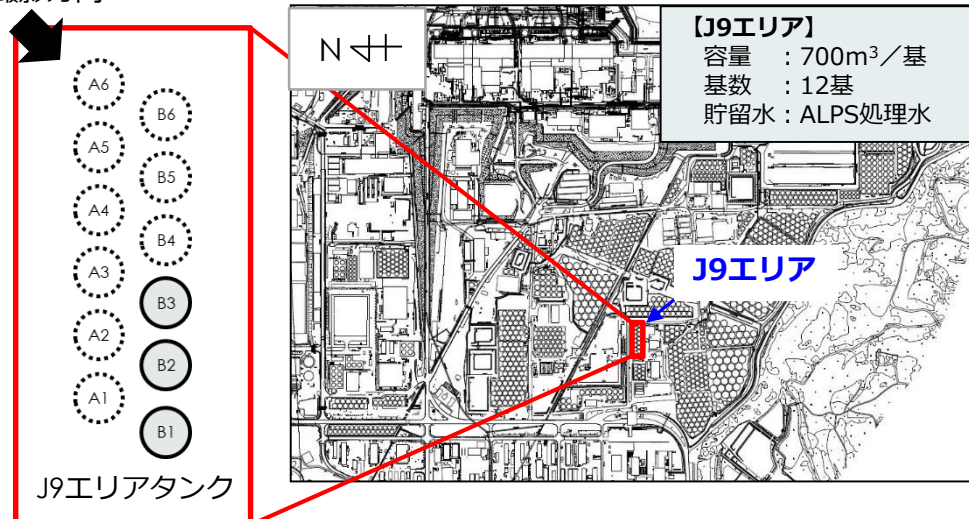
(参考1) 役員人事(2025年6月26日付)を踏まえた社内体制の変更

(参考2) 放出開始以降の海域モニタリングの実績

2. J9エリアタンクの解体状況について

- J9エリアタンクについては、2025年2月13日に運用停止し、2025年2月14日から解体に着手。
- 2025年7月1日に9基目のタンク解体が完了。

写真撮影方向



<タンク解体実績表>

解体完了 タンク	解体完了日	解体完了 タンク	解体完了日
A6	2025年3月4日	B6	2025年6月10日
A5	2025年3月14日	B5	2025年6月19日
A4	2025年3月31日	B4	2025年7月1日
A3	2025年4月10日	B3	—
A2	2025年4月21日	B2	—
A1	2025年5月14日	B1	—

○ : 解体済み



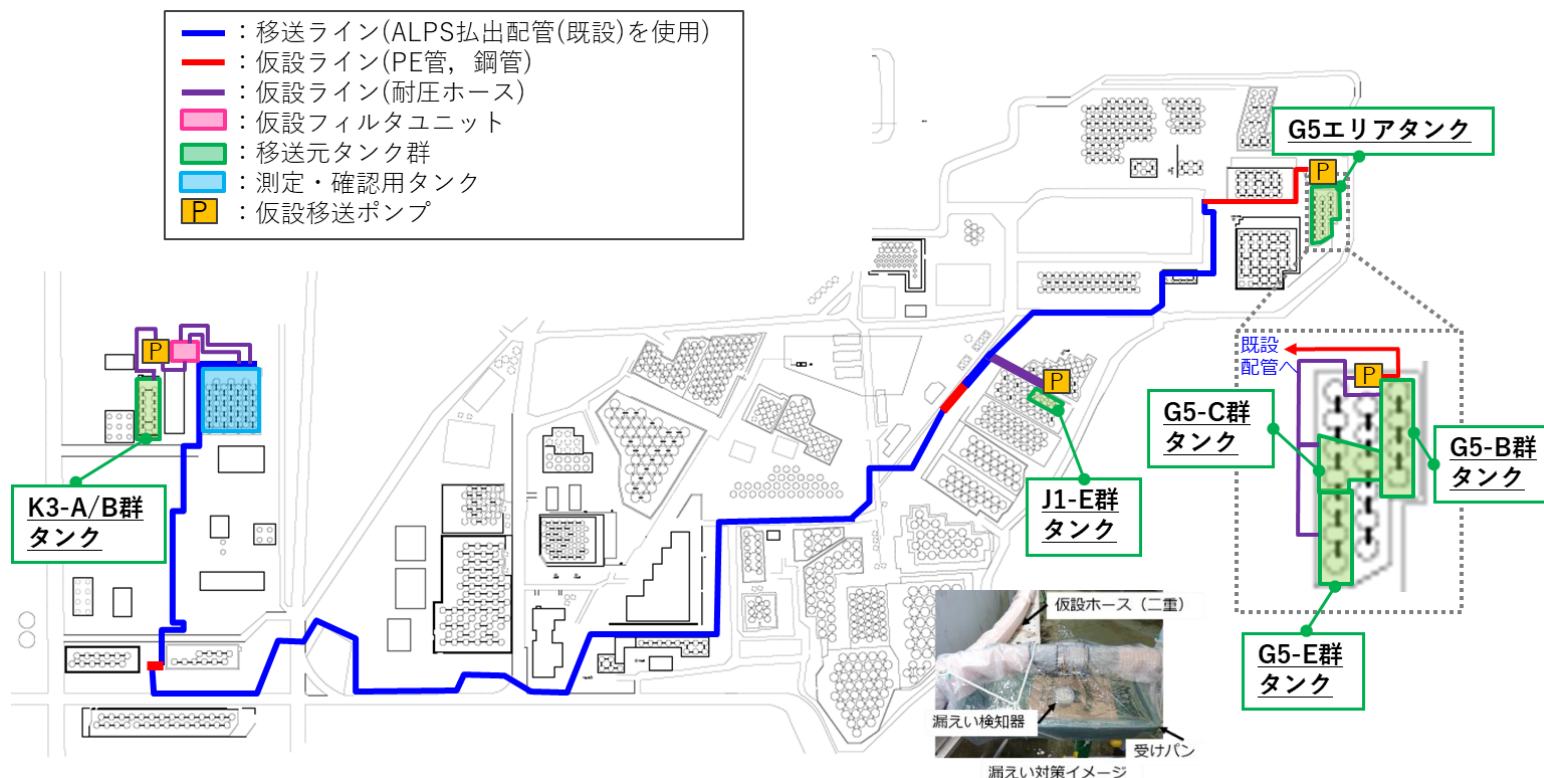
1. 海洋放出に係るモニタリングについて
2. J9エリアタンクの解体状況について
- 3. 今後の放出に向けたALPS処理水の移送について**

(参考1) 役員人事(2025年6月26日付)を踏まえた社内体制の変更

(参考2) 放出開始以降の海域モニタリングの実績

3. 今後の放出に向けたALPS処理水の移送について

- 管理番号：25-2-13の放出に向けたK3-A/B群およびJ1-E群から測定・確認用設備C群への移送を実施（2025年4月3日～2025年4月25日）。2025年5月9日から循環攪拌運転を実施し、2025年5月16日にサンプリングを実施。現在、分析中。
- 管理番号：25-3-14の放出に向けたJ1-E群およびG5-E群から測定・確認用設備A群への移送を実施（2025年5月8日～2025年6月3日）。2025年6月10日から循環攪拌運転を実施し、2025年6月17日にサンプリングを実施。現在、分析中。
- 管理番号：25-4-15の放出に向けたG5-E,C,B群から測定・確認用設備B群への移送を2025年6月4日から実施。2025年7月4日に移送完了予定。2025年7月10日から循環攪拌運転を実施し、2025年7月17日にサンプリングの予定。



1. 海洋放出に係るモニタリングについて
2. J9エリアタンクの解体状況について
3. 今後の放出に向けたALPS処理水の移送について

(参考1) 役員人事（2025年6月26日付）を踏まえた社内体制の変更

(参考2) 放出開始以降の海域モニタリングの実績

- 当社は、ALPS処理水の安全な放出、風評対策、賠償等の取り組みや、国内外の関係する方々との調整等を円滑に進めるため、2023年8月、社内において関係部署を横断的に統括する体制を整備しました。
- 2025年6月26日付の執行役人事を踏まえ、同日、当該体制について、以下の通り変更しました（変更箇所は下線部）。
- 当社は、本体制のもと、ALPS処理水の放出を安全かつ着実に実施するとともに、風評対策等を徹底してまいります。

(1) ALPS処理水統合対策プロジェクトチームの体制

チーム長	代表執行役社長	小早川 智明
副チーム長	執行役副社長	小野 明
	<u>執行役副社長</u>	長崎 桃子
	常務執行役	秋本 展秀
	常務執行役	関 知道
	常務執行役	岸野 真之
	常務執行役	村松 明典
	常務執行役	忍 義彦
	取締役執行役	吉野 栄洋
チーム員	フェロー・社長補佐	新妻 常正
	本社、福島復興本社、福島第一廃炉推進カンパニーの関係する部室長等から構成	

(2) ALPS処理水影響対策チームの体制

チーム長	常務執行役 <u>秋本 展秀</u>
チーム長補佐	<u>立地地域室長</u> 朝川 陽一郎
チーム員	本社、福島復興本社の関係社員等

- ALPS処理水統合対策プロジェクトチーム
経営陣が情報を適時に把握し、速やかに指示を出すため、福島第一原子力発電所、賠償・風評対応、地域対応などの関係部署を横断的に統括する社長直轄のプロジェクトチーム。
- ALPS処理水影響対策チーム
流通対策、賠償対応、情報発信を一元的に取りまとめ、全国的に対応するための専任チームを本社に設け、担当役員を配置。

1. 海洋放出に係るモニタリングについて
2. J9エリアタンクの解体状況について
3. 今後の放出に向けたALPS処理水の移送について

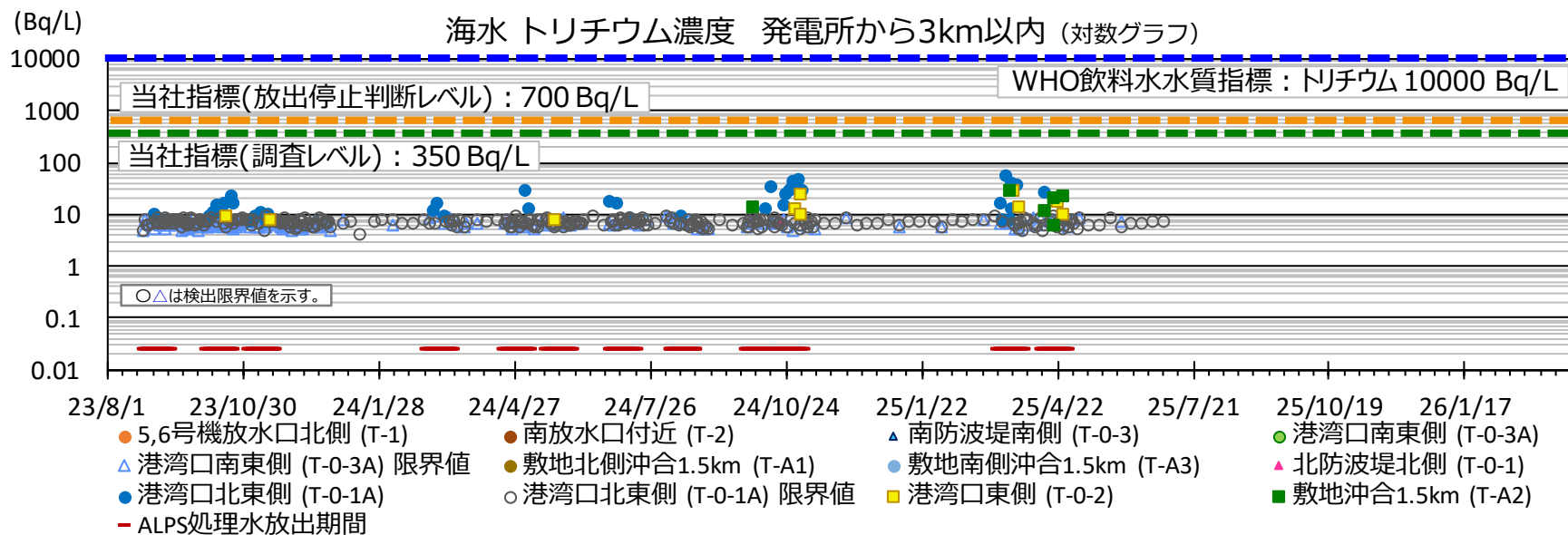
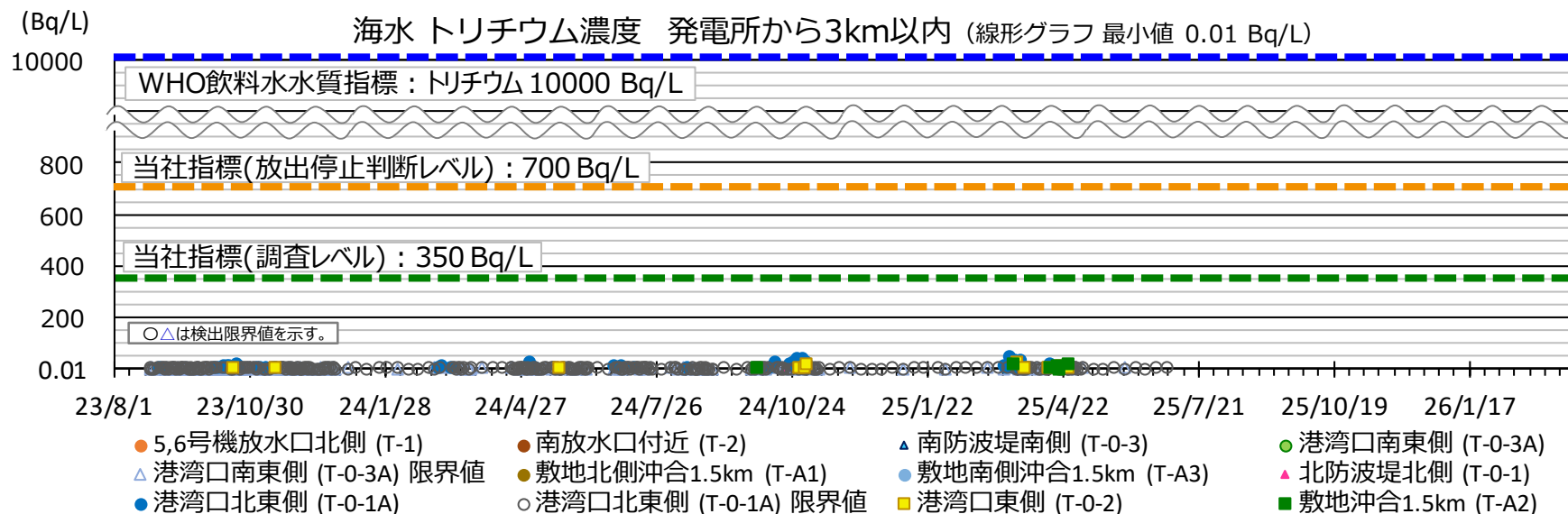
(参考1) 役員人事(2025年6月26日付)を踏まえた社内体制の変更

(参考2) 放出開始以降の海域モニタリングの実績

(参考2) 海域モニタリングの実績 (1/2)

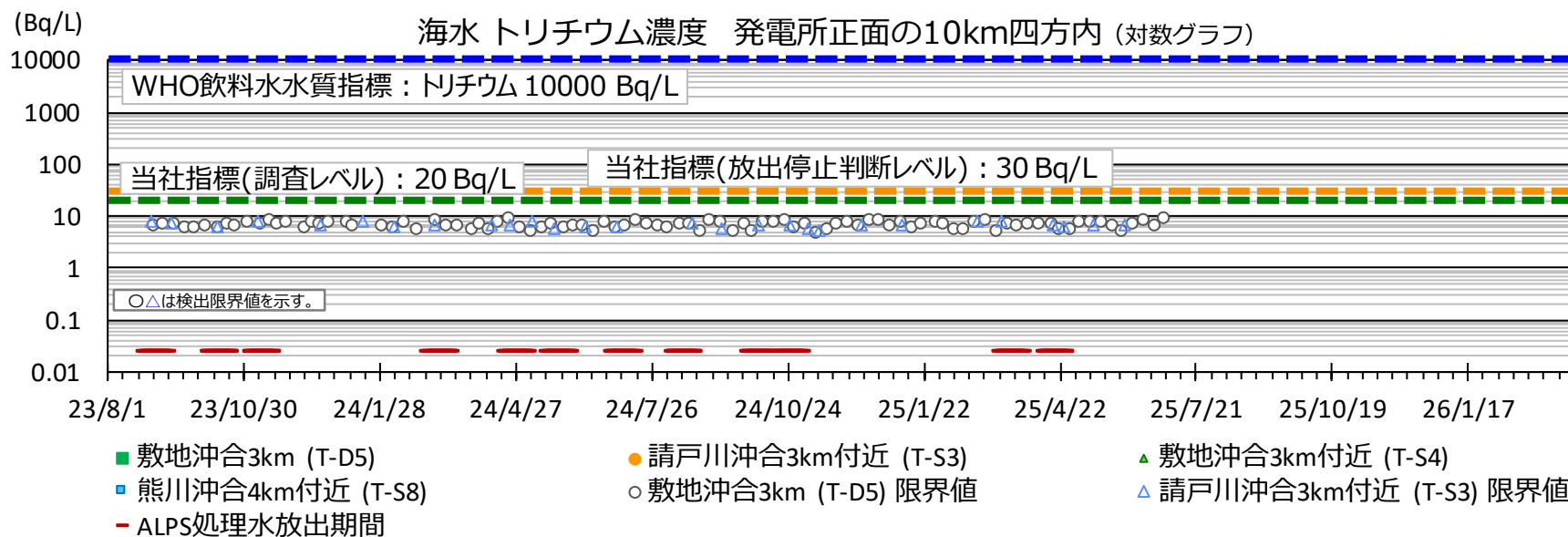
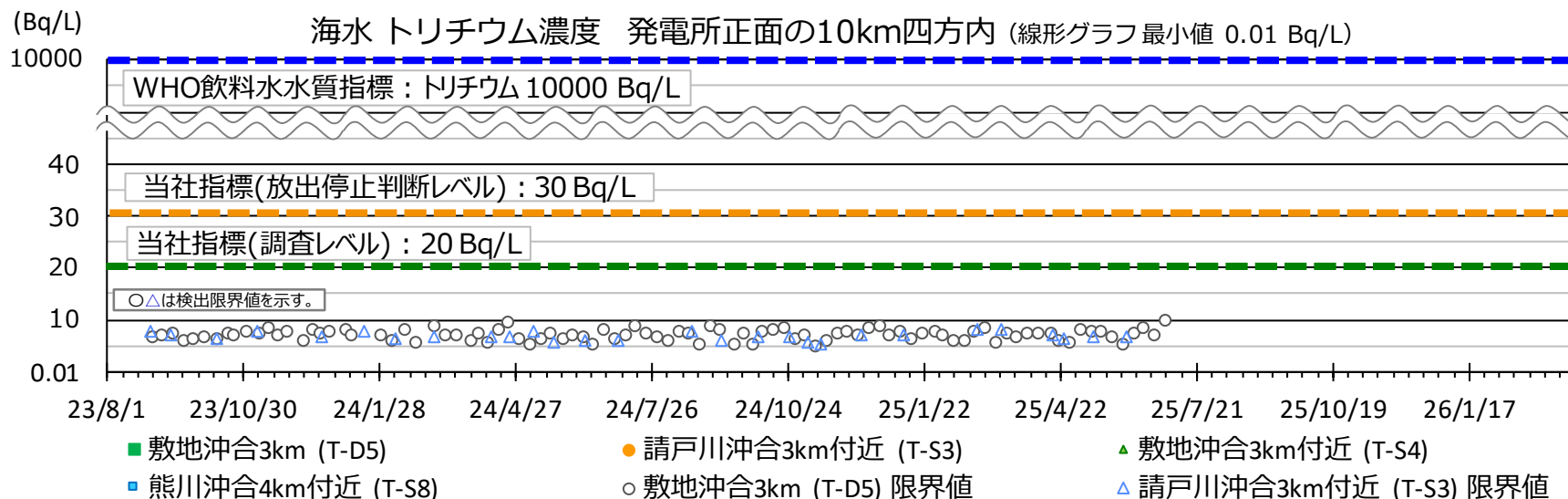
迅速モニタリング **TEPCO**

3km圏内



(参考2) 海域モニタリングの実績 (2/2)

10km四方内



(参考2) 海域モニタリングの計画 海水トリチウム 迅速モニタリング TEPCO

- 海水トリチウム濃度を迅速に把握するため、検出限界目標値を10 Bq/Lとした迅速モニタリングを開始し、放出停止を判断する指標（放出停止判断レベル）を設定

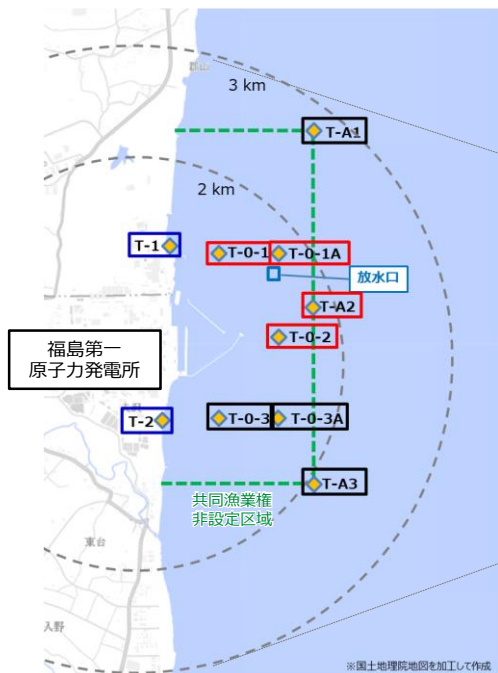


図1 海水採取地点 発電所から3km以内（放水口付近）

■ ■ ■ : 迅速に結果を得るモニタリング対象地点（10地点）
指標（放出停止判断レベル） 700 Bq/L
指標（調査レベル） 350 Bq/L

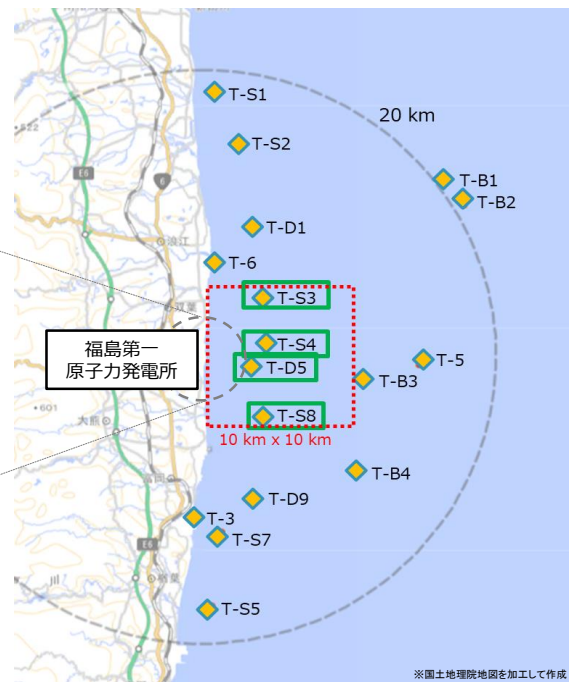


図2 海水採取地点 発電所正面の10km四方内

■ : 迅速に結果を得るモニタリング対象地点（4地点）
指標（放出停止判断レベル） 30 Bq/L
指標（調査レベル） 20 Bq/L

	【図1】発電所から3km以内（放水口付近）		【図2】発電所正面の10km四方内
	放水口周辺4地点 ■	その他6地点 ■ ■	4地点 ■
放出期間中および 放出終了日から1週間	毎日※1	週2回※2	T-D5:週1回 T-S3,T-S4,T-S8 : 月1回
放出停止期間中 (放出終了日から1週間を除く)	週1回※2	月1回※2	

※1 放出期間中に荒天のため連続して2日間欠測し、翌日（3日目）も欠測が予測される場合には、3日目はT-1、T-2 ■ の迅速に結果を得る測定を行う

※2 2023年8月の放出開始以降の放出中の実績等を踏まえ、2023年12月26日からモニタリング計画を変更した [\(2023年12月25日公表\)](#)